

子どもの権利講座 おとな対象講座



子育て支援者と一般参加者講座 4会場

○7月6日(日)

出雲市: 檜山コミュニティセンター 9:30~12:30

子育て支援者 地域の方々

○7月7日(月)と8日(火)

松江市: 市民活動センター交流ホール他

9:00~12:00

学童クラブ指導者・子どもの広場指導者

○12月7日(日) 出雲市: 出東コミュニティセンター 12:30~15:30 若い子育て世代

「子どもの権利講座」、おとな向けには4つの会場で実施しました。

会場や参加者にあわせ、少しずつ内容と時間の違いはありますが、「かかわりのなかに権利がある」、「遊びのなかに権利は満載」「権利とはなにか」「子どもの権利条約」を体感しながら学びました。

◎一番最初はお馴染みグーパーの手を使った導入。

片手を前でグー、もう片方は胸でパー。あれ、私はできないよと会場に何人か一生懸命笑いながらも恥ずかしそうにしながらいる方々。そうです、それがとてもいいのです。できないことも楽しむこと。そしてできるかできないかではなく、「早くできるか、人よりゆっくりできる」の差。できなかつたら、あらーできないよーと笑いにかえ、そして自分のペースでできたらよい・・と北さんは最初から本題をぶつけてきます。北さん講師を務める大学の女子大生の話は、えっ!という驚きと、さもありなんという感じがただよいます。勝ち負けやいろいろなところで2つに分けて判断され続けの人生。子育てもそうしていませんか。マニュアルを求める人たち、そしてそうさせてきたおとな。なにか大事なものが失われてないか、北さんの話考えるものが多々あります。



・両手じゃんけんからラッキー7 (または とん がら どん)

3人4人で出した数が7に奇跡のようになったら・・というあそびです。「〇〇さん3だせよ」



などいわない偶然をあそびと笑いとかかわりのおもしろさにかえてします単純なあそび。なんども7がで

きてしまうグループの出現に早くも会場はなごみます。

・「新聞紙ボール」も、最初は呼吸があわなくても途中の「どうしたらもっとうまくできるか、感じた自分のキモチを伝える」タイムを持った後は、見違えるようにスムーズにいきます。また選手交代をしてみると、簡単そうだったことが全くできなかつたり違和感があったり・・・相手の立場になるとものの見方もかわります。

・「人間写真」は短い時間にお題をクリアしていかなければならず、主張し、折り合い、また意見をいい、認め合いすすめていきます。みんながだまっていたらなんにも生まれず進みません。そしてなぜかみんなとびきりの笑顔で演じます。ひとりひとりがここにいてよい、ここでひとりひとりの役割がある。あなたがいるからこの「写真」は成り立つ。北さんも誰もそんなことは一言もいわない。でも全員がそれを感じている。そんな時間です。



そして、一筆書きでは、無言のうちに相手のキモチに呼应し

て、でも自分らしさを紙に絵をつくるという作業で表します。「そうきたかー」と心のなかで笑いながら他者を認め、自分も主張する。「あそび」ですが感じるものは多々ある時間です。「答えはひとつではない」・・・



「むだなものに子どもは価値をみいだす」などなど自分の幼いころを思い出すようです。そして今回、この一筆書きの顔はまるで子育てのようではないかという北さんの話、えーっ、そこにそう描くの？それいらないよーと思いつつそれを受け入れ、ひとつの顔をつくっていく。子育てもおじいちゃんおばあちゃん、両親などひとりの子どもにかかわるたくさんの人がいない「一本の線」を足しながらも「ひとりのふたつとない人間」を育てていく。折り合い、受け入れ、主張し合い・・・でもできあがった「絵」は愛おしい。聞いている私たちはなんだか胸が熱くなりました。

◎要求と権利

8つ自分が今ほしいもの、必要なものをあげ、2-3人でベスト3をあげます。要求をいかに「権利」にしていくか・・・ここで中学生講座でもでた以前北さんが実際に講座で体験した中学生の「自由」「広末涼子に恋した」「ピアス」の例がです。

笑いの中で「そうか、権利ってそういうことなんだ」と理解がうまれます。

3つのフィルター、お互いに安心・他者がその気・納得も心に落ちていきます。

そしてそれを体感する人間ファックスにうつります。

ひまわり、ロケット、運動会 ゆきだるま 単純な絵ですが、「ことば」だけで相手に伝えることいかに「安心してかいてもらう 納得してもらおう、その気になって描いてもらう」ことが難しいかわかります。ここで関わります。「ここはどんなふう？」と書く方も遠慮なく聞けるようになると説明する方も楽です。絵のうまさではない、だから描いたものを誰も否定もしない その気になって描いたものを受け入れる・・・あそ

びながら 笑いながら そして たくさん言葉をかわしながら みんなが体感していきます。

◎子どもの権利条約



今年も40条を初めてみたという人がほとんど・・・、もう批准されて20年がたとうとしているのに日本はこの現状です。この40条をグループで仲間ごとに分けてみる作業をしました。そして北さんの講義になります。

禁止であふれる遊び場や子どものあそび、ゲームやネットにふりまわされる日々の子どものたちの生活、塾・スポ少・部活で忙しく遊ぶ時間もぼーっとする時間もない子どもたち、そして子どもの発達を無視したおとなの気持ち、虐待の現状と子どもの心、子どもを商業目的としたゲームの存在を生み出したのはおとな e t c・・・北さんから

投げかけられたたくさんのお話は、子育て現場に関わる者に日々の関わりを改めて考える機会になりました。子どもに関わるのは「おとな」、このことをもう一度一緒に考える時間になりました。「関わる」ことの大切さを体感として学び、「関わり」は生きていくための「力」がたくさんあることも学びました。おとなである私たちの向き合い、子どもに対するまなざし、キモチ、それが子どもの「命」を紡いでいく、とても大切なものが学べ、そしてたくさんの人に伝えたいと感じた時間でした。

学童・子育て広場の皆さんは、この講座の後すぐ子どもたちと直接接し、実践だわと、子どもたちと何してあそぼうかなーと楽しそうに帰る方がいました。そして若い子育て世代の皆さんの吸収力には明るい未来を感じました。また地域の普通に生きている皆さんの心の柔軟さには、学ぶことがおおかった講座でした。経験から折り合い、受け入れ、ときには主張もする。そして講師の言葉に自分自身を振り返る力。子どもたちを育てるのは「地域の力」というのがわかるそんな気持ちもします。ほっと・すぱーす21の「もしもしにゃんこ」の話も講座の終わりに話をし、「地域の電話」としてのおとなとして協力してほしい旨を伝えました。共に地域のみんなで子どもたちの育ちの応援ができればと思います。

その反面、今回は仕事して子どもに向き合う人たちの、学びに向き合う気持ちの差が気になりました。

きっかけはどうあれ、子どもと向き合う仕事についたら持てる努力と心を精一杯子どもたちに注ぐ、未来につながる「命」であること、自らが育つ・学ぶ力のある「命」であること、私たちおとなはどう向き合うか、皆さん、学びを「学び」でおわらせないでください。それぞれの現場で、家庭で今日の学びを思い出し、少しでも実践し、まわりにひろげてください。おとなのむきあいが、心が子どもの未来をかえていきます。なかなか広がらなくても諦めずに・・・。

「おとな講座」アンケートより

◎「心に残ったことば」

- ・子ども像にとらわれないこと（複数回答あり）
- ・子どもの権利
- ・子どもが子どもをしている
- ・要求と権利
- ・こども像（複数回答あり）

- ・あそび
- ・共感（響関）
- ・あなたは あなた
- ・子ども像からの脱却（複数回答あり）
- ・子どもの権利条約（複数回答あり）
- ・まもられること
- ・子ども観
- ・3つのフィルター
- ・子どもは子ども（複数回答あり）
- ・子ども像から子ども観へ
- ・「らしく」「がんじがらめ」
- ・今出来る子、もう少ししたら出来る子
- ・生きる権利
- ・皆一緒になくてよい
- ・寛容
- ・自分らしく生きる
- ・遊育（多数回答）
- ・子どもの遊びの大切さ
- ・養育・遊育・教育
- ・要求と権利の違い
- ・子どもにも参加する権利がある
- ・やらなければならないことが多く、やりたいことができない
- ・子どもの遊びの権利
- ・遊ぶ権利
- ・要求と権利のつながり
- ・あなたはとても素晴らしい職場にいるんだよ。未来の子どもたちのカギを握っているのは貴方がたです。
- ・早くできる人と遅くできる人
- ・おとなの主張を押し付けない
- ・子どもの心に寄り添うこと
- ・あそび
- ・あそびのなかで、主張と強調が共感したときに子どもが安心、楽しみが広がる
- ・子どもの権利とはあそぶこと
- ・子どもに関係のあることを行うときは子どもに最もよいこととはなにかを第一に考えなければならない
- ・子どもの大切な未来を預かっている
- ・すごい仕事をしている
- ・子どもの目線にたち声を聴くということ
- ・最後の主催者のことば「あなたたちしかない！」
- ・かかわりの中で権利を育む
- ・みんな違ってみんないい
- ・出来ない子はいない すぐできる子と遅い子
- ・団体でなにかするとき苦手な子は排除しない
- ・すぐできる人 ゆっくりできる人 すぐ〜ゆっくりできる人（複数回答あり）
- ・子どもは子どもだ！（複数回答）
- ・その子の今に寄り添っていく ダメダメの禁止言葉ばかりつかわない



- ・子どもは成長、発達する存在 自ら学び育ち変わる
- ・出来なくても笑って！
- ・権利、要求（遊育 養育 教育）

<感想>

・おとなや親の考え方を思い直す機会を与えてもらった。(60代 男性)

・「うんうん、そうそう」と思うことがたくさんあった。前から北さんのことは聞いていたので話が聴けてよかった。(60代 女性)

・改めて子育ての参考にします。(40代 男性)

・ワークショップを通して、出来ない子どもへの声かけの大切さを知ることが出来ました。(60代 女性)

・活動を通しながら、みんな違ってみんないい、人はいろいろな人がいて、みんな大切だということがわかりました。(70代 女性)

・子どもの禁止語が多い、余裕がないことを改めて感じました。(60代 女性)

・権利の言葉にすごく難しいイメージで参加しましたが、楽しく笑いながらしかも考えさせられる場面もあり、とても有意義でした。(60代 女性)

・笑顔いっぱいの講座の中に大切なことをたくさん学ばせてもらいました。仕事に家庭に生かしていきたいと思います。(40代 女性)

・子育て中です（もう大きくなっていますが）今でもまだ子育て=自分育てだと思える毎日です。子どもが楽しくいるには親も楽しくいることをモットーに毎日暮らしています。今日はワークショップで楽しみながら勉強できました。(40代 女性)

・楽しく分かりやすく良かったです。(50代 女性)

・うちの子は勉強ができなくて養護学校を勧められましたが、今普通の高校に通っています。中学校の三年生のとき、担任の先生がかわり、養護なんていかななくてよいといわれ、今高校生活を楽しんでいます。成長の早い子、遅い子が本当にいます。親、私は子どもを信じて見守っています。(40代 女性)

・思っていたのとは違う内容でした。子どもの権利を主張されるのではと思いいろいろ反論も用意してきましたが、非常に分かりやすく納得しました。また次があったら行きます。職場の人たちに話します。(50代 女性)

・子どもと一緒に遊びます。(60代 女性)

・とても楽しく勉強になりました。次の機会があれば職場の指導員さんにもすすめます。(20代 女性)

・日々確かに管理している自分を感じました。子どもの考えを聴くことを改めて気付きました。今日から一日一日を大切に頑張りたいと思います。(50代 女性)

・最近悩みが多くなってきていた。少々気持ちが晴れて元気に午後から子どもたちと遊びます。(50代 女性)

・禁止することは簡単、そうじゃなくて考える力、育てたい！（30代 女性）

・目からウロコ！ぜひ全指導員に聞いてほしい。(30代 女性)

・お話を聞いたり、あそびを交えて、あーそうか、そういう考えもあるんだなとすごく勉強になりました。(40代 女性)

・現場で生かしたいです。子どもをみる目を温かく、かつまた冷静に！と思いました。(60代 女性)

・子どもらしくとは何かをよくかんがえさせられた。(50代 女性)

・子どもたちが本当に子どもらしく生きていけるよう、今日のことを実践していきたいです(40代 女性)



- ・いろいろなことを制限されている子どもたちにできるだけいろんなことを経験させてあげたいと思いました。(30代 女性)
- ・私自身ルールをつくりすぎていたなという感想です。(30代 女性)
- ・今の現状、そしてなにが必要かを聞いて良かったです。(60代 女性)
- ・今までの自分の悩みについて目からウロコの感がありました！(60代 女性)
- ・普段子どもについて考えて来たことを北さんの言葉で表現された事。感動しました。(60代 女性)
- ・心に染みました。我が家でも職場でも活用したいです。(40代 女性)
- ・北島さんの言葉がすーっと心にはいつてきて「そうだね、そうすれば良いんだ」と思いました。本当に良い研修でした。(40代 女性)
- ・子どもの心に寄り添って週一回の子ども広場が子どもにとってやすらぎの場になるよう、支援していきたいと思いました。(30代 女性)
- ・講義だけでなく、いねむりもできない状態で楽しく過ごさせていただきました。生意気な子どももいましたが全員がかわいく見えるようになりました。(60代 男性 ←心に残ったことば 子どもは子どもだ！)
- ・北島さんの言葉に何度も心を打たれ涙が滲みました。それでいいんだよと子どもたちに話してあげることのでんなに安心するんでしょう。今日は本当に良かったです。(30代 女性)
- ・私の子どもの頃を思い出しながら聴きました。子ども広場でやっていたことは正しい子ども像を思っていたかかもしれません。ダメが多かったと思います。今後子どもたちとどう接するかスタッフと検討したいと思います。(60代 女性)
- ・あっという間の3時間でした。講義、アドリブ、洗練された講座に感心しました。(70代 男性)
- ・子どもの権利が多いことに驚きました。講師の人柄もよくわかりました。(60代 男性)
- ・北さんの一言一言に「うん、うん！」とうなづくことばかりでした。子どもがケガをしないようにとばかり考えていてもいけないと思いました。(50代 女性)
- ・子ども広場で、これはダメ、あれはやっちゃダメと言っているように思います。安全管理員のなかで一番怒っているのは私かも・・・けがをしなければ、人の迷惑をかけなければ、もう少し心ゆったりと見てあげなければと思いました。(30代 女性)
- ・今回参加して、本当に人との関わりが大切だと思いました。人と人との関わりがないと気持ちを伝えることもできませんし、先に進まないように思えました。関わりの中から子どものやる気を引き出せるように活動したいと思いました。(40代 女性)
- ・枠にとらわれないで考えることが大切と思った。(20代 男性)
- ・子どもが子どもであるうちにできる限り自由と甘えをさせてあげたいと思った。(20代 女性)
- ・子どもが嫌いなことでもできるように(できるまで)怒らず一緒に行くことを心がけていますが、それができなければならない、やらなければならないという考え方が「子ども像」なのかと思うと目から鱗です。(30代 男性)
- ・子どもと本当のあそびをしたい！(30代 男性)
- ・親の都合のいいように意見を押しつけることが多かったが、今度からは子どもの行動ともう少し広い気持ちでつきあっていきたい。(30代 男性)
- ・もう少し若いときに受講したかった。若い世代にためになることばかり。(60代 男性)

